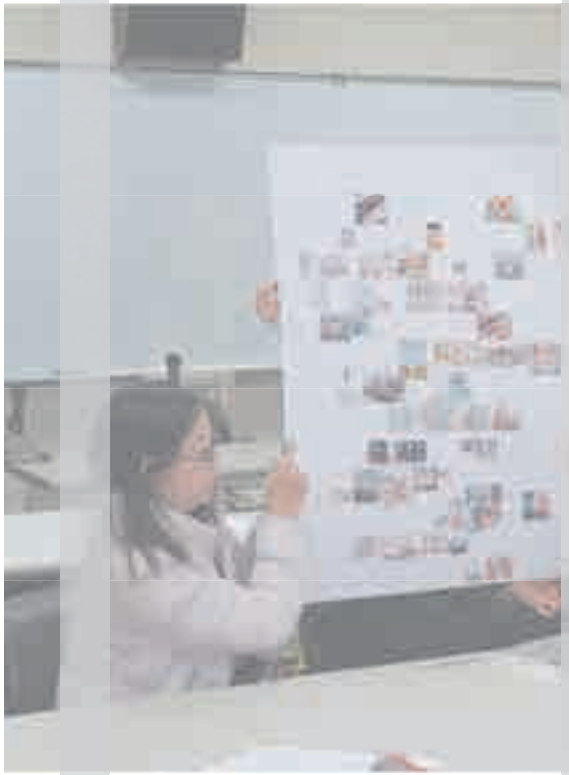
Case 12

こんにゃく商品のパッケージ及びラベルのデザイン創作



「古くさい」から「おしゃれ」への取組み

有限会社向山食品は青梅市にあるこんにゃくの専業メーカーで、美味しさにこだわり、厳選した原材料でこんにゃくを製造販売しております。青梅線御嶽駅の自社販売店で土産物として、「のしこん」という真空パックを使った匂いのしないさしみこんにゃくを販売中です。また大豆の粉をたっぷり使って大豆風味を最大限に活かした「豆腐こんにゃく」も好評です。この度、食品表示法施行を機に、こんにゃくの「古くさい」イメージを刷新したパッケージとラベル創作の依頼を受けました。

授業に出席された向山社長は「のしこん」「豆腐こんにゃく」の商品説明と、女性顧客のパッケージの見た目とデザート感覚重視、小家族化による小サイズ品需要増という顧客層変化を説明。「おしゃれ」をキーワードにデザイン創作に取り組むことになりました。

日本中から沢山のこんにゃくパッケージの資料を集め、アイディアマップを作成し、ブレーンストーミングで「おしゃれ」なデザインを議論。マップを精査後、学生一人一人がデザイン案を作成。デザイン方向性を決める授業には向山社長も参加し学生と熱く議論しました。

デザインプロセスの実践と学生の成長

授業で方向性が決まったあとは、今度は学生が協力しあって商品の特色を活かしたコンセプトをまとめ、デザインを更に詰めて「おしゃれ」なパッケージとラベルのデザイン完成に向けて取り組みました。

デザインプロセスの実践は学生にとって初めての経験で作業時間制約もありました。学生は大変だったと思いますが、自分達のデザインしたものが世の中に出る楽しみを持ちつつ、デザインプロセスを学ぶことによって学生は成長してくれたと思います。

プロジェクト概要

●テーマ
自分達で創作したデザインが世の中に出る楽しみにしつつ、デザインプロセスを学び、実践する。

●パートナー
有限会社　向山食品

●担当教員
呉　起東 准教授

●実施期間
2016年9月～2016年3月